



ラージボール卓球大会

5年ぶり
町会対抗開催

笹賀の世帯数・人口	
世帯数	4,745世帯
人口	10,746人
男	5,424人
女	5,322人
(令和6.3.1現在)	



笹賀公民館は1月28日、同館でラージボール卓球大会を開催し8町会から80人余りが参加した。久しぶりの町内公民館対抗競技で、応援に競技にと熱中する姿が、あちこちで見られた。昨年度、なんとか開催にこぎつけたけれど選手の動員に役員が四苦八苦する状況で、個人戦での開催となり、町内公民館としての盛り上がりは難しいところであった。本年度も、まだ従来通りと言う訳にはいかず、全町会の参加はならなかったが、競技運営規則

に工夫を凝らして流動的な対応により開催実施となった。7人の対戦を4人で編成する4シングル1ダブルスの5試合方式に変更し、男女自由として参加しやすくした。試合結果は往年の名手、小沢美保、清沢洋子選手を擁し、若手の清沢亮斗、彩斗、村上公彦選手と人材豊富な神戸町会が優勝した。準優勝は、エクス西川和子選手に、大川勝彦、ゆみ子選手がうまくかみ合った空港東町会。3位に、躍進著しい赤羽淳子選手、実力者の金森隆治、米山聡選手の活躍で、上二子町会が入賞して大会の幕を閉じた。



松本一本ネギで餃子づくり

菅野小5年生と3年生



松本一本ネギの栽培から指導を受けている青木秀夫さん(丁A松本ハイランド野菜部会松本支部長80筑摩)京子さん(77)夫妻と、小中学校で食育活動を展開する餃子製造販売の

菅野小学校の5年3組(高橋岳教諭32人)は1月22日、自分たちが育てて収穫した「松本一本ネギ」を使った「餃子づくり」を調理室で行った。「一緒に松本一本ネギを育ててきた3年生3クラスも12月から1月にかけてそれぞれ「餃子づくり」を体験した。



調理の感想を三石愛奈さんは「自分たちが苗から育てた松本一本ネギで作った餃子なので、いつもより美味しく感じる」と言い、横山結心愛さんは「皮に包むのが難しかったけど、美味しさは特別でした。家へのお土産にして家族と食べたい」と大事そうにパックに入れていた。

した具材はキャベツと鶏肉で、ニンニク、ニラ、豚肉は使わず、調理では用意した松本一本ネギを児童が練り込み、特製の皮で包んで餃子を作った。ネギの3大品種は「加賀」「千住」「九条」という説明や、「水戸黄門が、中国から入ってきた餃子の最初の愛好者だった」と等の話聞きながら、餃子が焼き上がるまでの時間を過ごした。焼き上がった餃子を5個ずつ分けて配り、思い思いに試食した。

(株)信栄食品から2人の講師を迎え、児童は調理服姿で授業開始の8時50分にネギを刻む作業を始めた。講師が、学校用に下ごしらえ

二子小クラブの授業

4・5・6年生



二子小学校は2学期に、地域の指導者を講師に招きクラブの授業を行い、4年生から6年生が専門科目を体験した。サッカーや卓球等のスポーツや陶芸、フラワーアレンジメント等の文化部門の科目を8月から11月まで6回の授業を行った。卓球クラブに参加してクラブ長を務めた山田奏人さん(6年)は「前より出来るようになり、もっと強くなりたい」と言い、副部長になった小林鈴蘭さん(6年)は「初めて教わる事が多く楽しかった」と終わりの会で挨拶した。顧問の百瀬真帆教諭は「地域の先輩と触れ合い、専門技術を見て、将来の糧にして欲しい」と結んだ。

笹賀公民館講座 『松本の芸術文化と歴史を学ぼう』

2月28日(水) 笹賀公民館講座「松本の芸術文化と歴史を学ぼう」で松本市の博物館と美術館に23名が参加しました。

最初に向かったのが、松本市立博物館で「至極の大衆文化 浮世絵と酒井コレクシヨン」と常設されている「松本のあゆみ」を2班に分かれて観覧しました。

浮世絵は国内外から高い評価を受け、現代では美術作品として多くの人を魅了しています。江戸時代には庶民から広く親しまれていた大衆文化だったそうです。そのため身近で親しみやすく、面白さも含んだ多様な作品が生まみ出され、展示されている作品では、生活感の



溢れた物もありました。それを制作していた彫師や摺師の職人達が育て上げた「大衆文化」であったといえます。先人達の努力と時間を考えると頭の下がる思いでした。

一方「松本のあゆみ」は3階に常設されており、市民学芸員の方の説明を聞きながら、松本を深く知ることができました。まず、目に入ったのが、松本城を中心にした昔の町のジオラマで、江戸時代後期の城下町が再現されていました。改めて松本という町を知ることができました。

それから美術館に向かいました。お昼ごはんをいただき、今開催されている「夭折の画家 須藤康花光と闇の記憶」を観覧しました。幼少期より病気を抱えながら、絵を描き、数々



受賞をしています。2歳の時

弟を、15歳の時母親を亡くしています。それにより「死」というものを身近に感じ、苦しみの中病氣と闘いながら「静」と「闇」の世界を表現していく決意をして追求していきました。23歳の時父親と長野県麻績村に移り農業をはじめます。この頃描かれた絵は風景画も多く、心が安定しているように感じました。30歳で亡くなるまで絵と向かいあい魂がこもった作品を数多く生み出しました。

次に草間彌生の世界を体感しました。日常では見ることができない空間で楽しかったです。参加者は日頃なかなか芸術文化や歴史には足が向きませませんが、この様な機会を設けていただき、良い物が見れて楽しかった、又企画してほしいですと言っていました。



スマホ相談会・デジタル笹賀

公民館だよりなどでお知らせしているスマホ無料相談会は月2回開催されています。1月からは予約なしで相談でき、新たに相談員として川崎さんと網野さんが対応しています。相談人数も回を追うごとに増えていきます。スマホを持っているけれどもうまく使えない、もっと使いこなしたい、と言う前向きな人が相談に来てくれているそうです。

「その場でわからないことも、時間が許す限り一緒に調べて、応えられる範囲でお答えします。予約制ではなくなりましたので、気軽に相談に来てください」とのことでした。



デジタル笹賀は令和5年5月から、インターネットやホームページ、ブログやSNSなどのデジタルスキルのステップアップを目指す学習会で、主に毎月第3水曜日に笹賀公民館で開催



されています。

現在まで、誰でもできる内容を前提に、ホームページ作り、動画編集、スマホを使いこなす基礎知識、そしてスマホやパソコンでAIを使ってみたり、クリスマスカードや年賀状を作ったりしました。講師は参加者の中から。自分のできることをみんなに伝えて、みんなでステップアップしています。

最近ではスマホ相談会と勘違いして相談に来たり、町会や隣組の配布物を上手に作りたいと来られる方もいます。今後、そのようなステップアップも考え、毎月第1水曜日はテーマを設けず自由にデジタルスキルについて話し合う情報共有・自由学習の日として開催しているとのことでした。